



# あおもり 町連だより

第220号

青森市町会連合会

発行者

齊藤裕一郎

〒030-0801 青森市新町一丁目3-7

TEL 017(734)2584

FAX 017(734)2587

青森市町会連合会

・サイトマップ ・個人情報保護方針 ・ご意見・お問い合わせ

町会連合会

新会活動

町連だより

町会について

会誌ダウンロード

まちづくり協議会

について

町会に加入して、活動に参加してみませんか？

一人ひとりでは解決することが難しい地域課題も、地域のみなさんと力を合わせることで解決することができます



青森市町会連合会とは？

町会とは、同じ地域に住むかたたちが、安全・安心な住みよい地域をつくるため、自主的に組織された任意の団体です。青森市内には370町会あり、お互いに助け合い、協力し合い、支えあって、様々な活動を行っています。一人ひとりでは解決することが難しい地域課題も、地域のみなさんと力を合わせることで解決することができます。あなたも町会に加入して、活動に参加してみませんか？

お知らせ

- 2022年04月29日 地域コミュニティ強化プロジェクト研修会中止のお知らせ
- 2022年04月29日 地域コミュニティ強化プロジェクト研修会中止のお知らせ
- 2022年04月29日 あおもり町連だより「第223号」を掲載しました
- 2022年04月29日 地域コミュニティ強化プロジェクト研修会中止のお知らせ

・お知らせをもっと見る

あおもり町連だより 最新号



・バックナンバーを見る



青森市町会連合会

〒030-0801 青森市新町一丁目3-7-4F

TEL 017-734-2584 FAX 017-734-2587

© 青森市町会連合会 All Rights Reserved.

ホームページ公開準備中

市町会連合会で  
電子媒体化に取り組み

市町会連合会では電子媒体化の構築を進めております。パソコン版・スマホ版のホームページから項目（コンテンツ）をクリックすると町会連合会の「概要・各部会の活動・各地域町会区分図・町連だより・町づくり協議会」などの閲覧が可能です。また地域各町会が提出する書類のダウンロードもできるようになります。公開は来春の予定です。

紙面紹介

2・3面 特集  
「青森市のごみ問題を考える」

4・5面 8・9月に開催の6部会から  
炎天下の交通診断  
／家庭ごみ減量など

6・7面 連載 いにしへの「地名」「通り」  
「ふたつの松森」  
「練兵町・銃丘町」

8面 わたしの町会「新城緑ヶ丘」  
計報

# 特集 考えよう「ごみ問題」

櫛引 素夫編集委員  
(青森大学社会学部教授)

古くて新しい町会運営の課題が「ごみ問題」です。特に最近、町会加入率の低下と相まって、「顔の見えない関係」がもたらすトラブルもしばしば見聞します。ごみの量はどうすれば減らせるのか。ごみをスムーズに処理するにはどんな工夫があるのか。今号から随時、ごみ問題を取り上げていきます。

## ごみの量が多い青森市

まず、青森市のごみの量を全国平均と比べてみましょう。図1に2015年度から2019年度までの推移を示しました。データは青森市ホームページの「青森市のごみの現状」ページから引用しました。数字は1人1日当たりのグラム数です。

### 本県も全国5位

2015年度、青森市のごみの量は1,090グラムで、全国平均939グラムに比べて100グラム近く、割合にして16%も多かったことが分かります。

その後、年を追って量が少しずつ減り、2019年度には1,038グラムと、4年間で5%近く減りました。全国との差は13%まで縮まっています。ただ、この年度は、ごみの量そのものは、わずかながら前年度より増えてしまいました。

実は、青森市だけでなく、青森県全体も、1人1日当たりのごみの量は、全国的にみて多い方です。

青森県がまとめた資料によると、2019年度のごみの量が1人1日当たり1,000グラムを超えていたのは6県。青森県は1,003グラムで、富山、福島、新潟、鳥取に続いて第5

位でした。

## リサイクル低調

では、リサイクル率はどのようでしょう。図2に、同じく2015年度から2019年度にかけての、青森市と全国の推移を示しました。

2019年度の青森市の全国19.6%に対し、青森市は14.7%と、約5ポイントもの差がついています。別の見方をすれば、青森市のリサイクル率は

全国に比べて、4分の3しかありません。

リサイクル率の県平均は14.3%と青森市に近い水準ですが、都道府県別の順位を見ると下から数えて4番目と、やはり芳しくありません。

気になるのは、リサイクル率が全国、青森市とも低下してきていることです。

## 巣ごもり気がかり

2020年初めから世界を覆っている新型コロナウイルス感染症のため、経済活動が低迷する一方、「巣ごもり」需要で配送用の紙ごみなどが増えそうです。これらの数字が今後、どう動いていくのかが気がかりです。

図1 ごみ排出量の推移(グラム・1日1人当たり)



図2 リサイクル率の推移(%)



## ワースト10

さて、県内のごみ事情を見渡すと、青森市は40市町村の中でどんな立ち位置にあるのでしょうか。県がホームページで公開している資料から考えてみましょう。

図3は1人1日当たりのごみの量を、多い順から並べてみたグラフです。青森市は10番目と、県平均の1,003グラムを上回り、やはり上から数えた方が早い量です。

ただ、町会という立場から、この数字を見るときは、少し注意が必要かもしれません。グラフにも内訳を示した通り、ごみは「生活系」と「事業系」に大きく分けられます。このうち、町会との関わりが深そうな生活系のごみに限ってみると、青森市は673グラムと、県平均の682グラムに近い数字になっています。

市町村別の順位では24位、最も多い大間町(1,044グラム)や最も少ない新郷村(556グラム)と比べると、健闘していると言えるかもしれません。

## 蓬田の半分以下

では、市町村別にみたりサイクル率はどうでしょう。

先に記した通り、青森市の14.7%は県平均14.3%に近い数字です。市町村別の順位でみると19位と、まずまずに見えなくもありませんが、数字をみるとトップの蓬田村(38.3%)に比べ半分以下で、やはり褒められた水準とは言えません。

ただし、一口に「リサイクル(率)」と言っても、内訳を用心深く見ていく必要があります。紙類、紙パック、金属類、ガラス類、ペットボトル、容器包装プラスチックなど、さまざまな対象品目が

あり、細かく分析すれば、青森市の取り組みが進んでいる品目、努力の余地がある品目が見えてくるかもしれません。さらに、町会としての取り組みが威力を発揮する品目も浮かび上がるかもしれません。

## 青森市がカギ

加えて、青森市は県人口の22%を占める県内最大の都市である点も心に留めておきたいところです。青森市のごみ対策の進展は、県全体の動向を大きく左右するのです。



ごみ問題について、特に有効な対策や実践事例に関する情報、提言をぜひ、お寄せください。

あて先は青森市町会連合会事務局まで郵送かファクスでお願いします(1面題字横に記載しています)。

図3 県内市町村のごみ排出量(グラム・1日1人当たり)

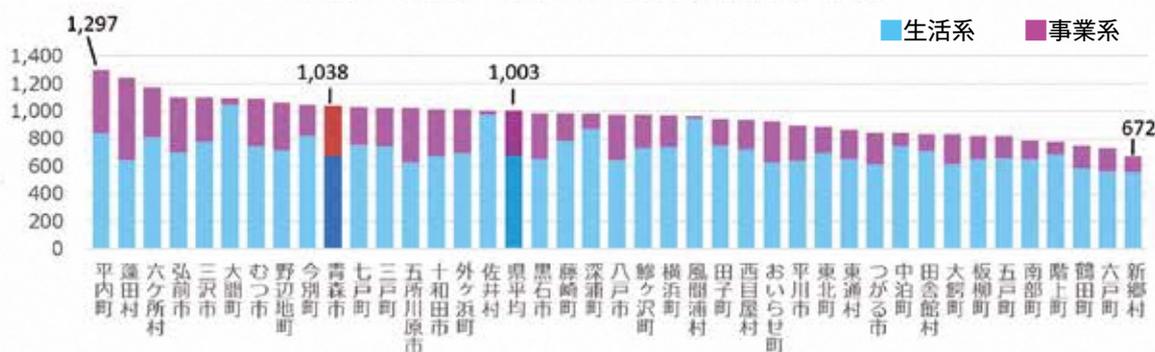


図4 県内市町村のリサイクル率(%)



6つの部会が8、9月に開催されました。  
 コロナ禍で活動が制約されるなか、「ふれあい・助け合い・支えあい」をモットーに町会連合会、町会と地域住民を結ぶ役割を果たすた

め、工夫を凝らした活動を展開しました。  
 令和3年度前半の各部会の活動や浮かび上がった課題は次の通りです。

## コロナ禍 部会活動に苦心

### 炎天下の交通診断

【交通・防犯】(8月26日)

神保修平部会長(堤橋)

鈴木 茂副部会長(赤坂)

交通安全施設の整備促進のため7、8月、市内53か所で交通診断に立ち会った。ロードミラー(ミラー、安全柵など)や交通規制(信号機、一時停止・速度の標識、横断歩道など)について新たに設けるかどうか、警察当局、市道路維持課の方たちと見て回った。どこも町会から「事故防止のため設置を急いで」と強い要望が出ている場所ばかり。猛暑が続き、炎天下、一つひとつ診断したが、交通法規や予算措置の関係からすべての要望に応えるのは難しい。このため部会では「要望を絞り込むためにもロードミラーなど設置の基準を各町会に提示できないものか」という提案も出た。

防犯については活動、運動の中心となる若いリーダーの養成が課題にあがった。

### 地域ねぶたを後押し

【総務】(9月10日)

野呂龍一部会長(久須志町)

佐々木重光副部会長(住良)

この部会は6つある部会の“一丁目一番地”。部会、ひいては町連の活性化は総務部会



市内53か所で行われた交通診断

の活動にかかっている一と齊藤会長が話すように野呂部会長、佐々木副部会長の議事進行で活発な話し合いが続いた。

「持論だが市内の要所に来市、来県者、新市民を歓迎する看板がないのは残念。設置運動を呼びかけたい」

「地域に伝わるねぶた、伝統芸能の継承を町連として後押しする。町連の役割でもある」

「市議会と率直に意見交換できる機会を設けたい。ごみ対策、雪問題などテーマはたくさんある」

「ことしも新任町会長の研修会を開催したい。コロナ禍が収束しないため慎重な意見があるが、感染対策をしっかり取った会場なら問題ない」

「町連独自のホームページの作成を進めている。トップ画面のイメージは出来た。パソコン版とスマホ版を用意し、だれもがいつでもアクセスでき、町連、町会と市民をつなぐパイプになる」

この結果、新任町会長の研修会の実施や地域ねぶたなどへの助成は決定し、青函ツインシティ交流研修会はことしの実施を見送った。ホームページは公開に向け準備を進める。

### 防災組織増やそう

【地域振興】(9月16日)

加藤恒雄部会長(浜田ニュータウン)

片桐 孝副部会長(広田町)

事業計画は災害に備えて自主防災組織の設立増強、町会への加入とコミュニティ活動の促進、県・市へ若い人たちが安心して働ける大企業誘致の働きかけ、雪の利活用研究機関の設置を国に要望一という4つ。防災組織は市によると全町会の50%を超したが、設立しても避難訓練に若い人の参加が少なく、活動継続に苦しんでいる。

定期的な研修会や啓蒙活動を行うなどのテコ入れを図ることにした。

「断捨離」に「菓ごもり」

【環境】(9月2日)

松本勝義部会長(鴨泊)

櫻田文信副部会長(野木)

清掃管理課からごみ減量化の取り組み状況を伺った。家庭系、事業系とも増加している。

「菓ごもり」のためか家庭系が増加し、清掃工場に直接持ち込む搬入ごみも目立つ。これは家庭で不要なものをまとめて捨てる、いわゆる「断捨離」が進んでいるからではないか、また事業系の増加はコロナ禍のなか、徐々に事業活動が上向いている一との見立てだそう。

部会では「しっかり分別がっちり削

毎月キュウリ一本で／ごみ減量  
事故防止へ／市民の声を届ける



コロナ禍で活動の難しさを訴える女性部会

減」を提唱しているが、新たに「可燃ごみ一人当たり毎月40グラムの削減」を目標に掲げることにした。市の可燃ごみ削減目標を家庭系に限定して計算すると、市民一人が毎月ほぼ40グラム、キュウリ1本程度減らせば実現できる。(松本部会長の試算)

ほかに排水溝などの雑草刈り払いを市が定期実施できないものか、町会がその都度、お願いしているが実行まで時間がかかる一という要望が出た。

講話開催難しい

【女性】(9月14日)

葛西房子部会長(袈懸)

穴水由利子副部会長(鶴ヶ坂)

毎年度、市長が講話する「女性の集い」と町会女性部研修会などを開催してきたが、コロナ禍の収束が見通せず、3年度も開催が難しい。しかし、事業を何から何まで実施しないようでは女性部会の存在が危うい。そこで浮かんできたのが参集者を限定し、

コロナ感染対策を徹底したうえでの研修会の開催。テーマもいまの社会情勢を反映したものにすることにした。詳細はこれから詰めるが、11月下旬の開催を見込んでいる。

事業計画を見直す

【福祉】(9月21日)

高森泰彦部会長(清水)

葛西清光副部会長(油川館町)

地域福祉の活動や事業は、社会福祉協議会や民生委員・児童委員協議会と重なることがほとんど。部会独自の活動を展開しないことには、住民、町会と町連を結ぶ役割が果たせそうにない。そこで、高齢者を励ます運動、地域ネットワーク活動推進事業、災害時に要支援者の避難を支援する運動など、ともすれば漫然と掲げてきた事業計画を見直し、地に足の着いた事業に絞り込むことにした。また敬老祝賀行事を工夫すべしという要望が出た。

◇……◇

部会の取材と記事は「町連だより」新編集長の松下政義(元東奥日報記者)が担当しました。部会役員たちの話から、地域でのつながりの大切さをおかみしめています。

◇……◇



市民生活と切り離せない「ごみ」

## いにしへの「地名」「通り」を知ろう 藩政時代編③

## 二つあった「松森」



松森町町会集会所 (2021年9月10日撮影)

## 町会名に名残り

現在、地名「松森」といえば、駒込川東側の「大字松森」を思い浮かべる方が多いことでしょう。この地名は藩政時代の松森村に由来します。地名辞典によれば、その後明治22年(1889)の町村制施行の際に造道村の大字に、そして昭和2年(1927)浜館村、同30年には青森市の大字となり現在に至るといいます。

この「松森」とは別に、もうひとつ「松森町」という地名がありました。現在は町会名として存在し、堤町一丁目にある町会の集会所の傍らに旧地名「松森町」の標柱が建てられています。この辺りがかつての「松森町」なのです。

## 「松森町」の成立

では、「松森町」はいつ誕生したのでしょうか。通説的な理解では貞享4年(1687)には存在していたとみられます。

一方、貞享元年頃に成ったとみられる「青森町絵図」ではこの地は「松森町」ではなく「関伝之丞取立新田」と記され、家屋らしき建物も描かれています。この新開発地が

松森町になるのでしょうか。また、関伝之丞は天和2年(1682)12月に新田見立勝手役というポジションに就いていることが分かるので、この地の新田開発もこの頃に始まったとみられます。

こうして成立した松森町は、青森町に組み入れられることとなります。これを青森の町づくりの過程に位置づけると、完了するのが寛文11~12年(1671~72)頃なので、それから約10年後になります。

## 松森町大火と堤橋

明治5年(1872)3月25日夕、松森町のとある長屋から火の手があがりました。博労町・堤町・葺町・塩町が罹災し、堤橋も焼け落ち茶屋町まで延焼しました。

新たな橋の架橋に関しては詳細が分かっていないのですが、明治7年にこれまでの橋よりも1町ほど南側に架け替えられたという説があります。現在、明治9年7月の天皇巡幸に随行したカメラマンが撮影した写真に堤橋を写したも

工藤 大輔編集委員  
(市民図書館歴史資料室長)

のがあります。これが大火後に架け替えられた堤橋だとみられます。

## 諏訪神社の遷座

この火災では、現在の青柳橋附近にあった堤川の中州に鎮座していた諏訪神社も類焼しました。青森町の名勝のひとつに数えられ、俳人・歌人はいうまでもなく、行楽に訪れる人が多かったといえます。境内には鏡の井、逆手の桜と呼ばれた名樹・古井もありましたが、瞬く間に烏有に帰したといえます。

罹災した諏訪神社はその後、現在地に遷座することになりました。現在、拝殿左方にふるい手水石があります。これは文化9年(1812)6月に大坂の橋屋伝三郎と兵庫の備前屋嘉三郎が奉納したものですから、まさに明治5年の大火を経験した手水石なのです。

そして、幕末の記録では諏訪神社の手水石は鳥居・狛犬とともに「見事」と称され、諏訪神社を訪れた際には一見する価値のあるもののひとつと認められていたのです。

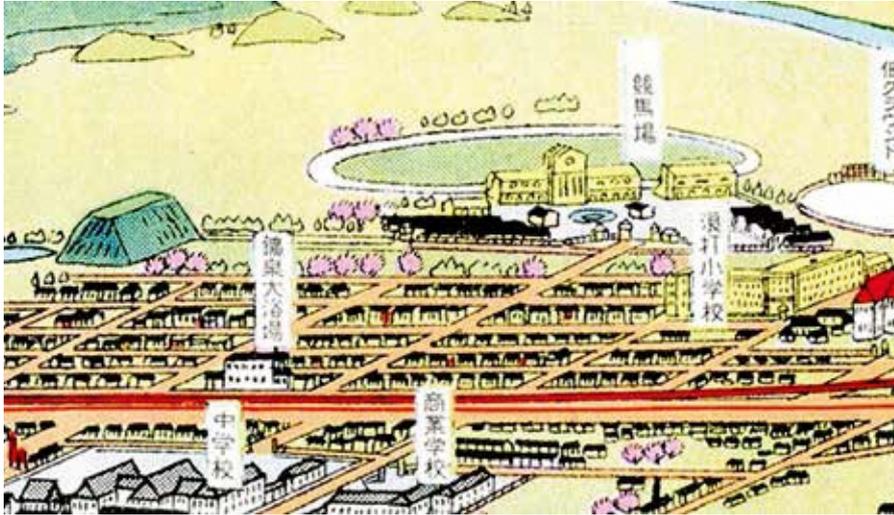


明治9年撮影の堤橋 (県立図書館デジタルアーカイブ)

## いにしへの「地名」「通り」を知ろう

## 近現代編③

## 訓練場が文教地区に



練兵町周辺  
(昭和7年「青森市鳥瞰図」、歴史資料室蔵)

## 五連隊の練兵場

浪打一丁目の青森県薬剤師会館のそばに「練兵町」と書かれた標柱があります。この標柱は平成5年(1993)に始まった「青森市旧町名・ゆかりの地表示事業」により立てられたもので、かつて使われていた地名の由来などが記されています。

「練兵町」という地名は明治から昭和初期にかけてこの附近に歩兵第五連隊の練兵場(兵士が訓練を行う場所)があったことに由来します。

## 一大住宅地に

昭和3年(1928)、練兵場は浪打から駒込(現在の戸山団地附近)へと移転しました。跡地は住宅地として造成され「練兵町」と呼ばれるようになりました。

宅地分譲の際に作成された「青森市管理理想的住宅地：分譲地附近平面図」(青森県立図書館蔵)というリーフレッ

トにはこの住宅地の魅力として「交通至便」「道路水道下水電灯完備」「八甲田ノ眺望」「合浦公園ノ行楽」「陸奥湾ノ清風」「教育ノ最適地」が挙げられています。

当時、練兵町の周辺には県立青森中学校(現青森高校)、青森県立商業学校(現青森商業高校)、青森県師範学校(弘前大学教育学部の前身)がありました。

さらに昭和5年には住宅地の一角に浪打尋常高等小学校(現浪打小学校)が開校しています。その校舎は鉄筋コンクリート3階建てで屋上運動場もあり、東北一の規模ともいわれました。

練兵町周辺

村上 亜弥編集委員  
(市民図書館歴史資料室)

は青森市を代表する文教地区だったのです。

## 鉄砲山があった

練兵場が住宅地になった頃、練兵場の南側にあった射的場(射撃訓練場)の跡地も住宅地となりました。射的場には射撃訓練用の丘(通称・鉄砲山)があったことから、跡地にできた住宅地は「銃丘(つつがおか)町」と呼ばれました。

現在、鉄砲山はありませんが、住宅地が造成されたあとしばらくの間は残っており、冬には地域住民がスキーを楽しんでいたそうです。昭和7年1月12日付『東奥日報』朝刊にスキーを楽しむ人々の写真が掲載されています。

昭和7年に発行された「青森市鳥瞰図」(吉田初三郎作)をみると、練兵町の南側に小さな山が描かれています。名前は書かれていませんが、この山が「鉄砲山」であると考えられます。



浪打小学校の校舎(昭和20年代後半、  
『復興した新しい青森』より)

### 「新城緑ヶ丘町会」の巻

町会長  
おおだいら としなり  
**大平 利成**



### 広報紙というよりは…

「緑ヶ丘町会だより」をほぼ毎月発行し20年で240号となった。ただし広報紙といってもB4版1枚で写真やカットだらけのチラシのようなもの。かつては文字が多く読みづらかったため紙面を一新。「回覧板と違って手元に残るし、見やすいからいいね」と言われるようになった。



20年で240号達成

### 版下は切り貼りで

では版下をどのように作るか。一言で言えば切って貼る  
①道具は紙と鉛筆、カッター、糊、太細のペン ②行事の写真を紙面の顔に使うので机にしまったりせず、まめにスクラップブックに保存しておく。カットも重要で子ども会の落書きが一番だが得意な中学生も持ってくる。俳句や短歌もカット代わりになる ③定例化された行事は以前の版下を再利用する。ちょっと手を加えればバレやしない、とは貴



200号を祝った町会の人たち

族の注文に超多忙だった音楽家J Sバッハのエピソードのもじり ④遊び心も大事で例えば「町会だより」の題字は紙面の右肩に固定しがちだが気分しだいで右下や左肩に移してみる。真ん中にデンと置けば実に爽快だ、これはほどほどに ⑤次に鉛筆でおおまかな割り付けをし、そこへ名前ペンで見出しを書き写真を貼る。慣れてくると説明文もいきなり書いたほうが短くて素朴な味が出る。スペースが狭いときは欄外にはみ出せばこれも楽しい。こうして約1時間余りで版下ができる ⑥最後に催事の日時と人名などに誤りがないか家人に目を通してもらう。これは一番肝心。

### 手配布は宝もの

印刷は近くの100円ショップを使う。いつでもできるし500枚の印刷に約20分と短時間で便利だ。できたものは回覧板とは別に33名の班長さんが一軒ずつ手配布する。市

内の住宅地なら1軒あたり1分はかからないので10分もあれば配り終える。とはいえ雨や雪の日もある。当初は心配したが20年もたつとご近所と触れ合う宝ものになっていた。これで回覧板では間に合わないものも確実に届けられ、読んでもらえる可能性も広がる。誤字・脱字を指摘してくれる人もいてありがたい。

### 広報活動は文化

町会では親睦をはかるためさまざまな行事を企画する。その告知を広報が担うわけだがそれだけではない。考える人、作る人、配る人、読む人、意見や文句を言う人、いろんな人の手によって広報活動に血が通い昔の瓦版のようなひとつの文化になる。ネットの時代だから紙を媒介とした広報もいずれ姿を消すかもしれないが、その心意気は別の形で継がれていくに違いない。

### 訃報

東部第5区：桐ノ沢町会  
町会長 小野寺 良雄 殿  
令和3年4月8日ご逝去

中部第3区：橋本町会  
町会長 白鳥 富雄 殿  
令和3年7月17日ご逝去

南部第7区：東桜川町会  
町会長 又村 昇三 殿  
令和3年8月9日ご逝去

南部第7区：鍋坂町会  
町会長 小野寺 忠治 殿  
令和3年8月22日ご逝去

東部第11区：鴨泊団地町会  
町会長 平泉 喜久郎 殿  
令和3年8月31日ご逝去

謹んで哀悼の意を表します